

# 琉球大学学術リポジトリ

米国管理下の南西諸島状況雑件 要人往来（政府高官・民間）訪沖

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-01-24 キーワード (Ja): 安川北米局長, 竹内駐米大使, 近藤外務審議官, 牛場次官 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/43268">http://hdl.handle.net/20.500.12000/43268</a>

大河原 春孝官 訪 沖

( 43.4.7 - 10 )

次官

官署長  
北平局長  
北平局長  
北平局長

極秘

南方班

大河原参事官出張報告(沖縄関係)

大河原参事官は、4月7日より10日まで  
向、沖縄を訪問。カーペンター民政官、松岡  
(その後台湾韓国を訪問した。)

琉球主席、山川立法院議長、安里社大党首長、  
上原全軍節軍首長等と会議 ~~した。~~

面談者の  
嘉年納基地、補給線等を行方、たか、注目  
する。発言次の通り。(その後台湾韓国を訪問した。)

1. カーペンター民政官  
(1) 日米間の意志疎通問題。  
(注) 注より、主席公産、基、10ト、  
操業問題等、承諾問題に於いて、米側の  
intention は、言いにもかゝらぬ。その発表のタイミング  
等に関し、~~米側の~~ USCARの立場の  
連絡の交渉(も満足すべき状態に可く、

GA-6

外務省

1097

2

そのために米側の意図を諒解せしめる結果  
を招くことには感しる旨述べた。  
(のには)

~~先方~~よく事情は了解するの? 今後  
連絡を密にすべく努力する。~~旨述べた。~~

(2) 布令116問題。  
~~先方~~日本側の事情は了解している。

新布令に212は、一部に伝えずとも、  
5月中旬までに発表という事は不可能  
と認む。  
~~先方~~「中」にせよ、草案が  
固まれば、発表前に、日本政府と  
協議する。  
(7-1) 高等所務官が本件を誰、何事  
の記者会見で  
冒合でとりあつる可能性を否定したとの  
8日付沖縄文の20号に付録(2)

GA-6

外務省

① ~~発言~~ 高等経済官 ~~の~~ 発言 ~~を~~ 注意 ~~を~~ した

かつた ~~と~~ 承知 ~~して~~ あり。 ~~を~~ して。 自分 ~~と~~ して ~~の~~ 7" は ~~存~~ 在 ~~が~~ ない

18. 本件は、まず ~~に~~ 諮問 ~~委員~~ 会 ~~の~~ 議題 ~~に~~ の ~~て~~ いる ~~と~~ 承知 ~~して~~ あり。 ~~こ~~ の ~~こ~~ ころ ~~に~~ ついて。

日米 ~~向~~ に ~~は~~itch ~~は~~ 存 ~~在~~ と思 ~~う~~。 米側 ~~と~~ して ~~も~~、 本内 ~~題~~ の ~~11~~月 ~~の~~ 送 ~~達~~ 前 ~~の~~ 大 ~~向~~ 題 ~~に~~ ついて

ある ~~と~~ 承知 ~~して~~ あり。 十分 ~~慎重~~ ~~に~~ 扱 ~~っ~~ て ~~い~~ る。 ~~ア~~ ~~ン~~ ~~ガ~~ ~~ー~~ ~~高~~ ~~級~~ ~~研~~ ~~究~~ ~~所~~ ~~に~~ 関 ~~し~~ て ~~は~~、 ~~日~~ ~~米~~ ~~向~~ の ~~関~~ 心 ~~の~~ 程 ~~度~~ ~~を~~ ~~報~~ 告 ~~し~~ て ~~い~~ る。

(3) 国政 ~~参~~ 加 ~~に~~。  
(個人的 ~~な~~ 参 ~~加~~ ~~と~~ して ~~は~~ ~~前~~ 置 ~~き~~ ~~に~~ して) 日米 ~~向~~

の ~~参~~ 加 ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~ア~~ ~~ン~~ ~~ガ~~ ~~ー~~ ~~高~~ ~~級~~ ~~研~~ ~~究~~ ~~所~~ ~~に~~ 関 ~~し~~ て ~~は~~、 ~~検~~ 査 ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~更~~ に ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。 ~~こ~~ の ~~こ~~ ころ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~更~~ に ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。

慎重 ~~に~~ ~~検~~ 査 ~~し~~ て ~~い~~ る ~~こ~~ の ~~こ~~ ころ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~更~~ に ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。

(4) 軍 ~~部~~ ~~の~~ 参 ~~加~~ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。

軍 ~~部~~ ~~の~~ 参 ~~加~~ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。 ~~こ~~ の ~~こ~~ ころ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~更~~ に ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。

内 ~~接~~ ~~雇~~ ~~用~~ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。 ~~こ~~ の ~~こ~~ ころ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~更~~ に ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。

18. 日 ~~本~~ ~~政~~ ~~府~~ ~~と~~ して ~~は~~、 ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。 ~~こ~~ の ~~こ~~ ころ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~更~~ に ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。

場 ~~合~~ ~~に~~ ~~は~~、 ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。 ~~こ~~ の ~~こ~~ ころ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~更~~ に ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。

に ~~関~~ 心 ~~が~~ あり。

2. 上 ~~原~~ ~~全~~ ~~軍~~ ~~務~~ ~~委~~ ~~員~~ ~~長~~。  
(注 ~~意~~ ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る ~~こ~~ の ~~こ~~ ころ ~~に~~ ついて ~~は~~、 ~~更~~ に ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。)

B-52 ~~駐~~ ~~留~~ ~~向~~ 題。  
自 ~~分~~ ~~自~~ ~~身~~ ~~に~~ 関 ~~し~~ て ~~は~~、 ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。

B-52 ~~に~~ 関 ~~し~~ て ~~は~~、 ~~注~~ 意 ~~を~~ ~~払~~ っ ~~て~~ ~~い~~ る。

「ウレト+6 戦争の不在」でなく、B-52の核武装問題、<sup>非</sup>でなく(1)軽音、と。(10)

B-52の積んて「<sup>1:83 標準率の対比</sup>通常煤陣~~車~~」<sup>不存</sup>がある。その意味ではB-52が「<sup>核弾</sup>」に云文は「起因する」

核煤陣を積んて「<sup>安全</sup>」である。その安全を「<sup>安全</sup>」と云文は「安全と云文は」

3. 西銘 自民党市長候補

(1) 9/31-汚職

9/31-汚職問題から「<sup>汚職</sup>」<sup>松岡主席のリーダーシップ</sup>の欠如によるものがある。党員は

自分(西銘)は「<sup>副市長</sup>」4月初め、小塚に「<sup>副市長</sup>」早く辞表を出すとか、保守党にとつて

小塚本人に「<sup>副市長</sup>」と云文は「<sup>副市長</sup>」か辞表を出すとは「<sup>副市長</sup>」行くところ、松岡「<sup>副市長</sup>」

主席が「<sup>副市長</sup>」を押し進めたため、<sup>副市長</sup>車能に「<sup>副市長</sup>」

(2) 主席選挙の見直し

自分(西銘)は石垣島出身で、芝島

の票、大部分と云文は「<sup>副市長</sup>」確信(7あり)、南部「<sup>副市長</sup>」7あり、~~半~~票、半分以上、北部「<sup>副市長</sup>」7あり

「<sup>副市長</sup>」<sup>以上</sup>半分の票をとることを期待して「<sup>副市長</sup>」問題、中部「<sup>副市長</sup>」、二地域「<sup>副市長</sup>」

どの程度の票をとるか心配して「<sup>副市長</sup>」流動票に関する限り、自分と屋良候補

(野党系候補)は、同程度の票を確保できると云文は「<sup>副市長</sup>」。従って、全般の

に「<sup>副市長</sup>」勝つことを期待「<sup>副市長</sup>」

(3) 国政参加

安井試案はナンセンスである。選挙に  
使うためには、もっと強力な手段を考へ

受け中は所々所々  
衆参両院併せて2人というのか1番

困る。その指界には、野党を1名出す  
考之かあるようだが、与野党各2

本土の議会に発言の機会を与えよう  
体制をつくる事か大切であり、その意味で、  
野党に十分期待を与えることか735に  
~~(1) 代表の人数は217~~  
衆参両院併せて5名、参議院2名と  
数の目安である。(2) 選任方法にか

は、立法院のその構成メンバーの比率に  
応じて決めるのが良いと思う。

付  
(別途、本土の特別委員と国会に際  
国政参加の種に不承認絶たりの代表  
が、~~衆参両院併~~

この上両院に  
各1名

送るべき 閣内員と23

者と2、直任者につき特別委員の一致した  
意見は次の通り

- (1) 代表者1名の場合 安室社大党委員長
- 2名 " 安室、松岡 理事長
- 3名 " 安室、松岡、加

太田政作前主席  
湘長 理治内  
代表。また付

~~湘長は、~~

(2) 湘長は、形骸委員長でも、国政参加の  
代表に7名、何れも2名可能を持つ

113名、本堂の意味でのリサーチに欠け  
ている。

4. 安室社大党委員長

(1) 諮問委員会 ~~は、~~ 日本政府は  
日本政府は、諮問委員会は  
高等弁務官に付属するものではないと主張

17日の場合の議論  
本日の議論

17日の場合、~~議論~~ 中絶の立場から  
24日は、琉政の高等弁務官の下に

あり以上、琉政の任命が代表は  
高等弁務官に對する独立性は

あり、従って、諮問委員が高等弁務  
官に從属するものではないとの議論は

通用しない。

(2) 即時返還論

自分(安里)は、即時返還論を唱へて  
いるが、自分から即時という場合の即時

は、今日、只今の瞬間、という意味で  
いう。何年後に返還するという方針を

今から  
明確にして、~~年内~~ 暫定期間内に返還  
準備をすることが、~~必要~~ 暫定期間内を

予定1に参考方がある。

5. 嘉年納村総務課長

(1) B-52 飛進状況

B-52は、毎日、午前10時、午後3時、

6機を

午後10時の3回出撃する。B-52の  
出撃の際には、B-52 1機に對して

給油

KC-135 (輸送機) 1機の割合で、隣の  
滑走路(嘉年納飛行場)に滑走路の

2本ある)から飛進する。 ~~KC-135~~

B-52は型下16機、機内135個計

(機内搭載は10個、~~機外~~ 機外搭載は5個)

51個の爆弾を搭載して行くが、KC-135  
の同時飛進は、B-52の無爆弾を

積んで置く、十分燃料を積んで離陸

出来る。その際、離陸後空中給油を

行つたためと考へらる。  
(参考。嘉年納村の消防署の望遠鏡)

より、B-52の発進状況は午にとりかき  
判るか。写真撮影と行つたと。たゞし。

M.P.にたつ理由。こゝには嘉年納村の  
何処か飛行場の撮影と行つた

2の英米  
本立の英米  
飛行場  
音にたつ  
音にたつ  
音にたつ

た。地上からの音にたつ理由は、B-52の音にたつ  
場合も同様理由。

(2) 騒音内通及住戸の不在。

騒音は、~~音から一音内通~~  
騒音は、音から一音内通は、B-52ではたつ  
KC-135ではある。

また、住戸の不在の中心は、墜落事故  
及び車事故による燃焼事故である。

以前に  
KC-135の墜落により大火災が発生した  
状況から住戸の不在の一つの理由である。

別添基の

(この案に由) (参考。東にありたる米軍の  
Commander James H. ... は、空軍の ... 大佐  
May Johnson)

懇談会による調査 - 小谷軍一は、住戸  
の不在を認めると有益である旨述べ

た。西谷、松田西代も、B-52内通

は、おたは、峠を越して下り、11月の翌年  
には直接関係なく述べた。

上原(軍部) 軍部長の事件に同日談話に  
つては、前記を参照。

参考。KC-135は、台湾の基地へ移ると  
いふ噂あり。これは、B-52も台湾へ

移るとは、否かと云々した。この  
案にたつ。台湾防衛隊在言は

情報  
未確認。KC-135は、台湾の  
外務省



へ移駐してくるという話がある旨述べた  
11月12日。U STDC - United States

TAIWAN Defence Command - 2008. 2008  
11月12日。一切説明を済ませた。

更にB-52移駐問題については、上記駐在官  
兼参事。 (1) 台湾は中共のレーダーのrange内  
全島

にあり。その場合(1) B-52 ~~は常駐させるには~~  
参考資料として、(2) B-52と台湾の

おて(2)の場合には、事前には国府政府の同意  
を得る必要があり、政治的にもデリケートな

問題であり、その点から、B-52の台湾移駐  
は参考資料の旨述べた。